

トビタテ！ニューヨーク留学

-世界の障がい児教育を学ぶ-

1. 活動時期

:2023.7/31～8/18

4年4組 三橋 祐太

2. 参加のきっかけ

:もともと留学自体に興味があったのと、障がいを持つ弟がいることで昔から障がい児教育に関心があったから

3. 参加した感想

①参加する前と後の変化

今回の留学を通して感じた中で、“挑戦することの大切さ”を一番に学びました。はじめ、語学学校のクラス分けテストで勤が冴えてしまったために、自分以外のクラスメートは全員英語がペラペラというような環境で授業を受けていました。なので、その中で発言を委縮してしまったり、うまく輪に入れなかったりといったことも多々ありました。しかしこのような環境で生活しているうちに、失敗を恐れず、とりあえず何か話してみようと思えるようになってからクラスに打ち解けられるようになりました。また、トビタテの探究活動の一環として行った街頭インタビューでは、断られることが多くありながらも、とにかく話しかけに行く中で、チャレンジする姿勢の大切さを感じました。こういったことの積み重ねにより、最終的には語学学校の卒業式で生徒代表スピーチに立候補し、200人を超える人々の前でスピーチをすることができました。

このような経験を通して、緊張したり不安になったりするのは何かにチャレンジする前までで、実際に挑戦をしてみると、やってよかった、という気持ちへ変化していく事を学びました。

②活動中の面白かったポイント

- 様々な国籍や宗教を持つ人へのインタビューを通して、これまで知らなかったような考え方や障がい児支援の形態などを知ることができました。
- 世界中から集まった人々と仲良くなったので、自分の価値観の広まりを感じるとともに異文化交流の楽しさを感じました。また、このようにして世界を知っていく中で”日本の再発見”もすることができました。
- トビタテの探究活動の中で、障がいを持った方とニューヨークの街を観光することがありました。この活動を通してニューヨークの人は障がいを持った人々に寛容で、かつ適切にサポートをしてくれる人が多いことに気づきました。しかし、このような姿勢には障がいを持った方に何かあった時、自分のせいだと言いがかりをつけられないように念のため配慮をしておこう、と言ったアメリカならではの思惑も多く隠れているようで、アメリカの個人主義や自衛の価値観などが反映されているのだと分かりました。また、ニューヨークの街ではクラクションの音が聞くことが多かったのですが、これはアメリカのドライバーの気性が荒いから、等といった理由ではなく、歩行者の信号無視の多さに起因しているのだと気づきました。こういった所からも自衛がアメリカでいかに大切かがわかりました。これらの経験を通して、アメリカでは非常に強い個人主義や自衛心があるが故にお互いを思い合うようになっており、またその考えがうまく噛み合って絶妙なバランスで社会が回っているのだなと肌で感じました。



4. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

:実際に留学をしようと考えると、現地での生活や語学力など、様々な不安を抱えることになるかと思います。けれど、実際に留学から帰ってくると「行ってよかった」と思えるような、貴重で楽しかった経験になっているはず。絶対に後悔はしないと思うので、まずは一度、世界に飛び立ってみてください！